

東京六稜倶楽部第87回講演
—横浜開港150周年記念—
「横濱浮世絵に見る
横浜開港と文明開化」

平成22年3月17日
銀座ライオン7丁目店ライオン銀座クラシックホール



横浜黒船研究会 羽田壽夫

はじめに

2009年6月は横浜開港150周年にあたる。

1859年、国際港として開港した横浜港は貿易の開始とともに多くの外国人が移り住み、各国の商館やホテルが建ち並ぶハイカラな国際都市として日本中の注目を集めた。当時の日本人の旺盛な好奇心に応えるべく、江戸の多数の版元がこぞって、当時の人気浮世絵師を動員し、大量に出版したのが「横浜浮世絵」であり、美しく、華やかな町の様子を今に伝えている。

本講演では横浜黒船館蔵の開港・文明開化期の横浜の風景や風俗を描いた横浜浮世絵より50点を厳選し、半農半漁の小さな寒村横浜が、開港によって異国文化を受け入れ、急速に発展していった様子を御紹介致したい。

内 容

序 横浜開港の経緯

1. 開港前夜の横浜

2. 絵地図

3. 横浜の街並み・風景

4. 遊郭

5. 軍隊

附：横浜浮世絵図版リスト

6. 外国人風俗

7. 外国人行列図

8. 外国の景観

9. 外国商館と洋風建築

10. 見せ物

11. 鉄道開通

序 横浜開港の経緯

1. 開港前夜の横浜

図1 『双筆五十三次加奈川
從金川臺芒横濱本牧眺望』
広重・豊国(合作)
丸屋久四郎板
嘉永7年6月(1853)
横浜黒船館蔵

ペリー来航直前の野毛・横浜の遠景を描く。

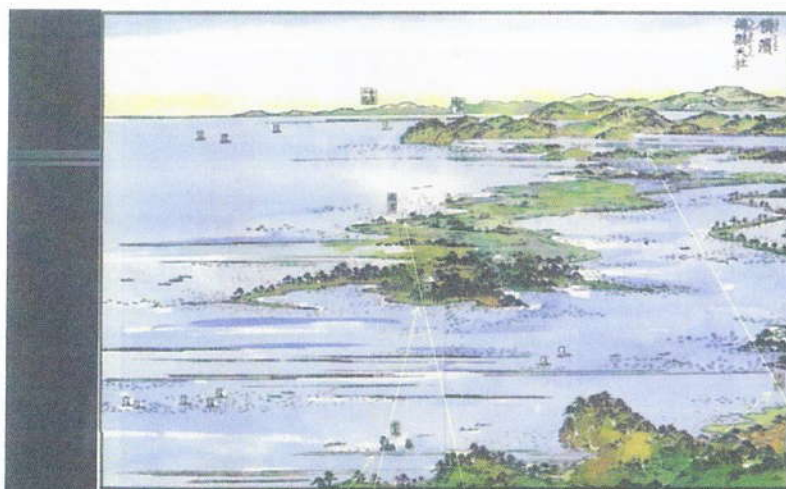
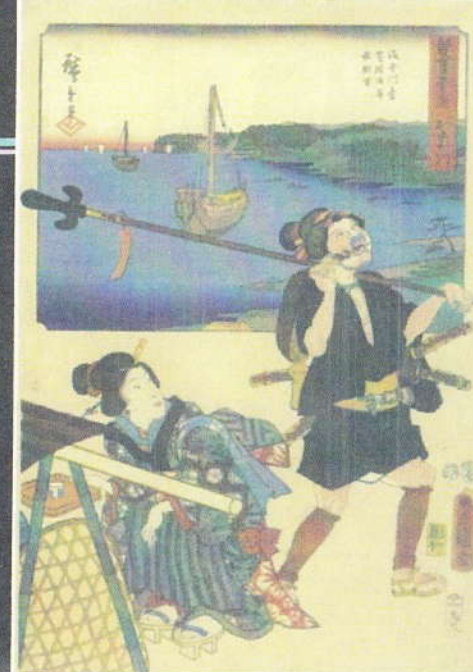


図2 『横浜辨財天社』『江戸名所図会』巻二、天城之巻、第六冊 斎藤幸孝編
長谷川雪旦画 天保5年(1834) 横浜黒船館蔵(原本は墨刷り)

野毛切り通しから見た開港の25年前の横浜周辺。手前には芒(野毛)の海岸が見え、『芒村(のげむら)』と書かれている部分のみ砂浜となっており、それ以外は未だ海。その上には現在の『元町』辺りから、文字通り横に突き出ている浜、『横浜』が描かれており、その先端には現在も井天橋に名を残している『横浜辨財天社』が見える。左下に、あたかも、伊勢の『夫婦岩』同様に『夫婦石』とも呼ばれた『絶嶋』が描かれている。

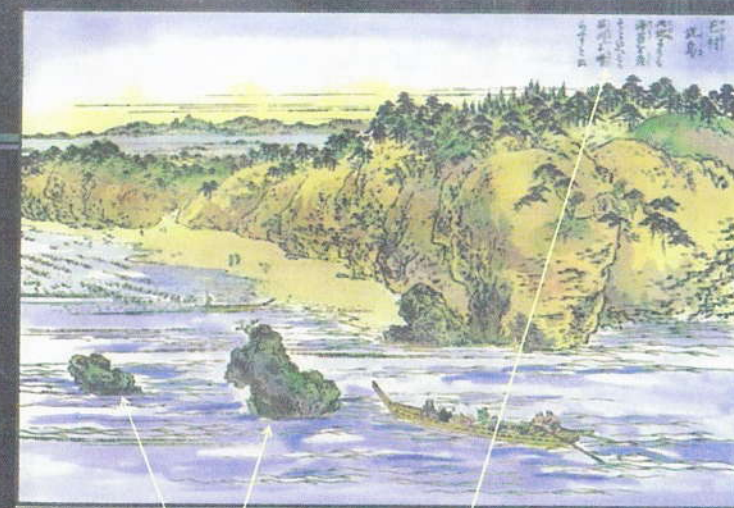


図3 『芒村姥島』『江戸名所図会』巻二、天城之巻、第六冊 斎藤幸孝編
長谷川雪旦画 天保5年(1834) 横浜黒船館蔵(原本は墨刷り)

現在『日本丸』が置かれている辺りの海上から、『芒村(のげむら)』の海岸を見たもの。左下の海中から突きだした岩が、『姥島』である。右の海に面する断崖が続く場所は、現在の野毛山から掃部山に続く辺りである。芒村(野毛村)は図中に『この地よりも海苔を産すといえども品川には増さらずと云う』とあるように海苔の産地であった。



図4j 参考: Landing of Commodore Perry, Officers & Men of the Squadron 横浜開港資料館蔵 水神の森



図4i 『神奈川横浜港案内図絵』

花里港崎町(現横浜スタジアム、2万5千坪)細見 部分

開港に6ヶ月遅れ、開港は安政6年11月になった。港崎町開港の道郭数は、開港後5ヶ月後9(図15)、7ヶ月後11(図19e)、と順調に増え、開港の9ヶ月後の本図では18にまで増え、ピークに達している。本図は開港の9ヶ月後の繁栄の有様を示している。ここには、岩亀楼(江戸品川宿道楽屋佐吉)、五十鈴楼(神奈川宿鈴木屋善次郎)のほか、岩亀楼、新亀楼、金鳳楼、大本楼、新五十鈴、伊勢楼、壽長家、出世楼、金石楼、開勢楼、花咲楼、玉川楼、保福楼、泉福楼、茶屋、千年長屋などの18に及ぶ道郭名記載の短冊が見える。

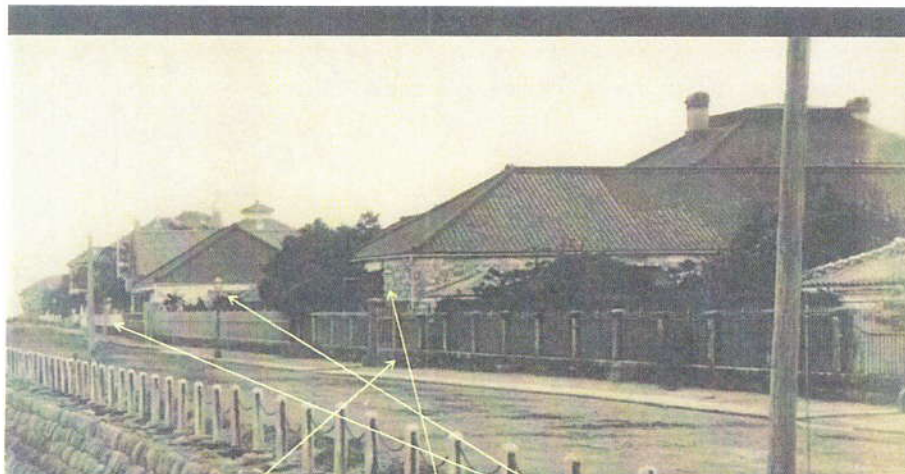


図4n 参考: 『横浜海岸通り』撮影者不詳 未発表
1870年代 二番館、三番館部分 横浜黒船館蔵

ウォルシュ・ホール商会(二番館 現産業貿易センター)、フレデリック・コンス商会(三番館 現県民センター)部分 玄関には門灯が設置され、道路にはガス灯が見える。ガス灯が設置されたのは明治7年12月。



清水辨財天

図4q 横浜弁才天社(ベアト撮影か) ライデン大学蔵
写真集 甦る幕末 朝日新聞社 1987 p36 所載

[illegible]

横浜関門、惣年寄、苅部清兵衛」と鑑札の発行者の名前が、右側には「二百八十八号」と鑑札の発行番号が記されている。

横浜の開門は、外国人を攘夷派の浪士が守るために開港場のすべての出入りに、安政6年(1859)から翌年にかけて設置された。開門では銃刀を持たない武士の通行が禁止され、外国人の襲撃事件が発生した場合には開門が閉鎖されることになった。

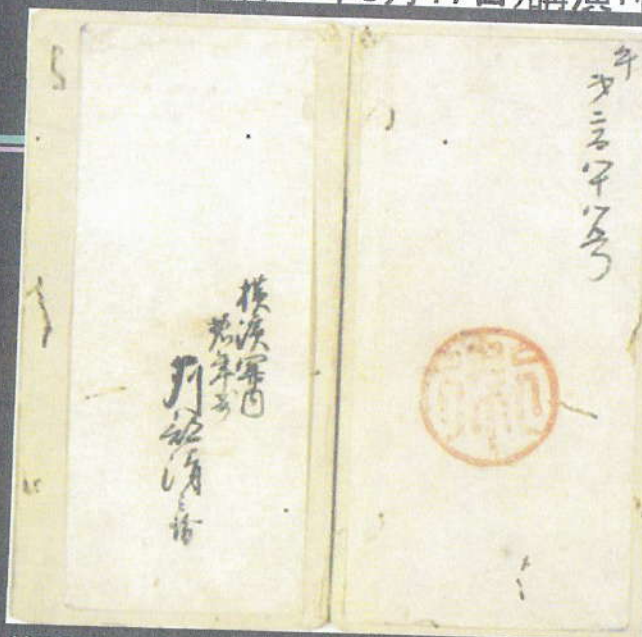


図4r『関門鑑札（保土ヶ谷区、輕部絨一氏蔵）明治3年（1870）



图4s 参考: The Entrance-gate of Yokohama, Japan, Illustrated London News, Aug.1.,1868 横浜黒船館蔵

吉田通判舞臺所を描いた、ワグマンの絵を木口木版化したものがIllustrated London Newsに掲載されている。『日本の本当の皇帝たるミカドの軍隊によって占領された横浜の出入り口の門である。この地が彼らに明け渡されるまで、また、降伏後でさえも、抱兵隊を伴うヨーロッパ人の守衛隊をおくことが賢明だと考えられていた。木口木版画に見える三人のこの門をくぐって入ってくる人物は薩摩出身の兵士連である。』と報じられている。



図5 『再改横浜風景』五雲亭貞秀
丸屋徳造 丸屋甚八 合梓
万延2年2月／文久元年6月(1860) 横浜黒船館蔵

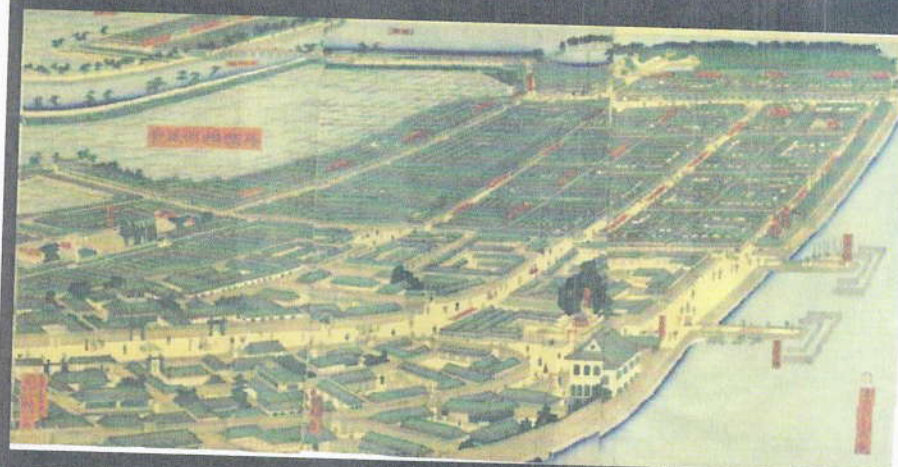


図5a 『再改横浜風景』五雲亭貞秀
丸屋徳造 丸屋甚八 合梓
万延2年2月(万延2年2月10日より文久元年) 横浜黒船館蔵



図5b 『再改横浜風景』五雲亭貞秀
丸屋徳造 丸屋甚八 合梓 文久元年(1861)6月 横浜黒船館蔵

25

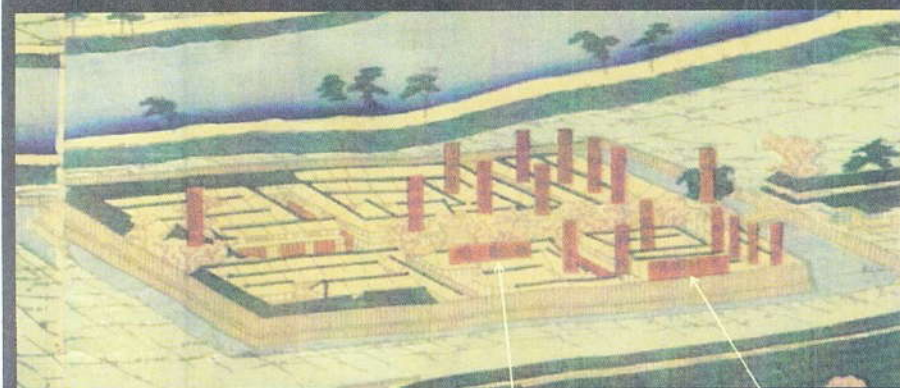


図5m 『再改横浜風景』五雲亭貞秀 港崎町部分

開業9ヶ月後の図4lより更に11ヶ月経過した文久元年6月の状況である。

遊郭数ピークの18から、ここでは17となっており、岩亀楼(江戸品川宿岩槻屋佐吉)、五十鈴楼(神奈川宿鈴木屋善次郎)、岩里楼、新岩亀楼(図4lでは新亀楼)、金浦楼、伊勢楼、万長家(図4lでは壽長家)、出世楼、金石楼、開勢楼、花咲楼、玉泉楼(図4lでは玉川楼)、千年長家(図4lでは千年長屋)、保橋楼はあるものの、新五十鈴、大本楼、泉橋楼、茶屋はなく、代わりにけいやき家?(1)、村田、けいやき家?(2)などの短冊が見える。

26

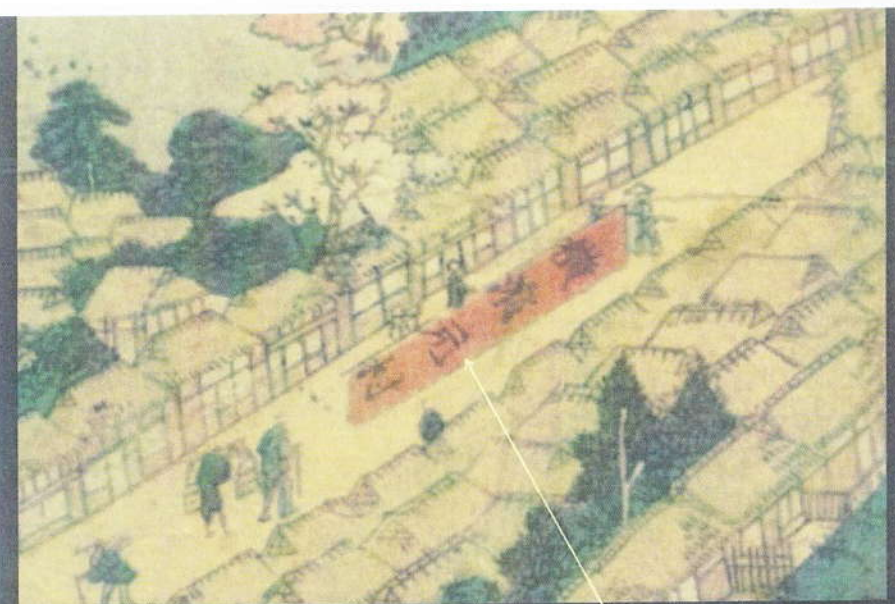


図5o 『再改横浜風景』横浜元村部分

本図が出版された万延2年には『元町』はまだ『元村』と呼ばれていた。

27

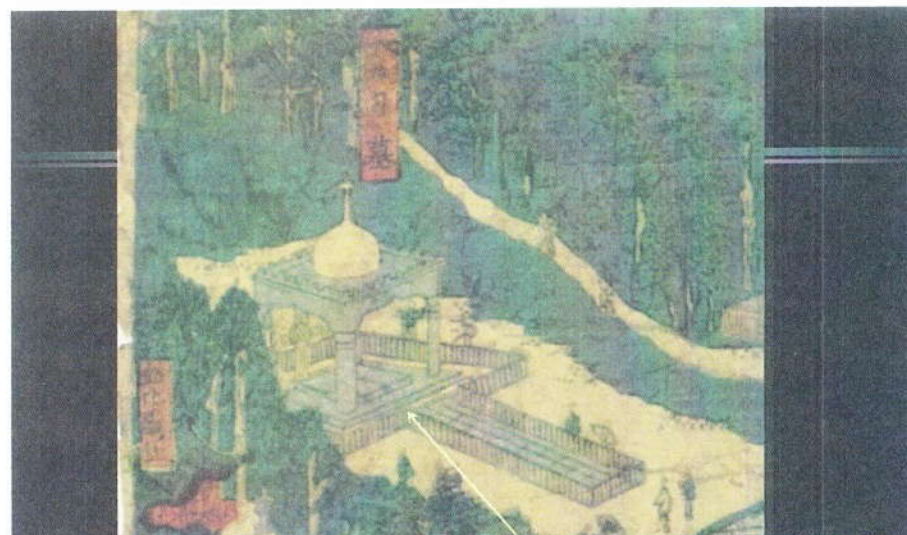


図5p 『再改横浜風景』文久元年(1861)6月ペルリ墓部分

本図にて“ペルリ墓”と呼ばれているこの建造物は図27m『武州横浜外国人遊行之図』では“本村(元村)佛廟”と呼ばれており、横浜在留外国人の人気スポットであったようである。ペルリは、帰国後の1858年3月4日(本図が出版される3年前)米国で死亡している。しからばこのペルリ墓と記された墓は誰の墓であったのか。

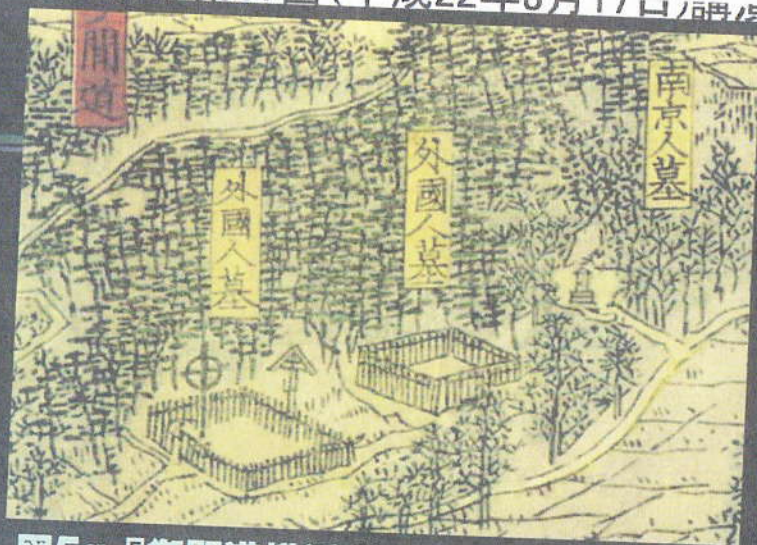


図5q『御開港横浜之全図』玉蘭齋橋本謙
萬延元年(1860)部分 横浜黒船館蔵 外人墓部分

本図は玉蘭齋橋本謙(五雲亭貞秀の別名)による『御開港横浜之全図』萬延元年(1860) 外人墓部分である。ここには外人墓として2墓、南京人墓として1墓描かれている。



図5r『御開港横浜之全図』玉蘭齋橋本謙
萬延元年改版(1860) 横浜黒船館蔵 外人墓部分

万延元年改版では、外人墓は、更に詳細に、アメリカ墓、イギリス墓、ロシア墓、南京人墓が描かれ、このうち図5pにてベルリ墓と記された墓と同じデザインの墓には、アメリカ墓と記されている。



図5s『御開港横浜之全図』一川芳員
元治元年(1864) 改版 横浜黒船館蔵 外人墓部分

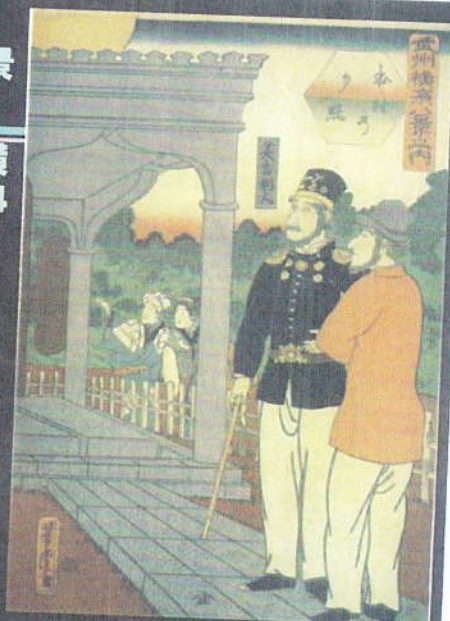
一川芳員の元治元年(1864) 改版では、外人墓として、図5pにてベルリ墓と記された墓と同じデザインの墓が2墓と、南京人墓と記された墓1墓が描かれている。

図5t 参考：『武州横浜八景之内 本村之夕照』

芳虎 万延2年正月 集大成横
浜浮世絵 有隣堂 昭和54
年12月 p79 所載

『横濱開港150周年 横浜浮世絵にみる横浜開港と文明開化』渡邊美喜執筆 そごう美術館刊 2008.7には本図に対する解説として下記の記載がある。

“「武州横浜八景」シリーズの内のひとつ。ここに描かれているのは、横浜外人墓地にある一番古い墓で、1859(安政6)年に殺されたロシア使節の士官のものです。この巨大な墓は、明治期に台座部分のみに改められ、現在も外人墓地に残っています。”



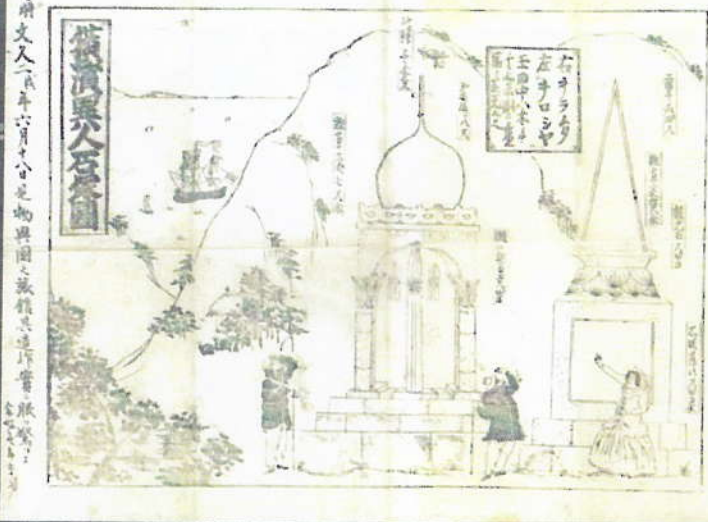


図5u 参考：『横浜異人石塚圖』文久2年6月18日
(1861) 未発表 横浜黒船館蔵

本瓦版により、貞秀がペリリ墓(図5p)、アメリカ墓(図5r) 或いは外国人墓(図5s)とし、芳虎が本村仏墓(図27m) としている墓は実はロシア人士官の墓であったことがわかる。

安政6年7月27日横浜町3丁目で殺害された、ロシア海軍見習い士官・水兵2名については下記の記録がある。

- 安政6年7月27日(1859.8.25) ロシア海軍見習い士官R・モフエト・水兵I・ソコロフが横浜町3丁目で殺害された。後、慶応元年5月(1865.6) この下手人は水戸天狗党の一味と判明、横浜で処刑された。しかし、ここにいたるまでには、様々な経緯があった。すなわち、
- 7月28日(1859.8.25) ロシア使節ムラヴィヨフ、軍人殺害事件で提督を現場に派遣、犯人逮捕・処罰を要求。
- 7月29日(1859.8.27) 殺害ロシア軍人の葬儀、軍葬の礼を以て執行、各国領事館員ら参列。
- 8月1日(1859.8.28) ロシア領事コスカグッチ、神奈川奉行の同国人殺害犯人捜査不熱心を訴え老中に同奉行の罷免を迫る。
- 8月3日(1859.8.30) ロシア提督ホホフ、神奈川奉行役宅で水兵殺害事件につき水野忠徳らと談判
- 8月5日(1859.9.1) 幕府、外国人に対する不法取締のため火附盗賊改を増員、神奈川奉に出張し不法の者(武家を含む)の逮捕を命令。
- 8月22日(1859.9.18) ロシア艦アスコルド艦長ウンコウスキー、神奈川奉行の罷免・犯人の死刑を要求。
- (●8月27日(1859.9.23) 幕府、徳川慶喜に隠居願、水戸藩主徳川慶篤に差控、徳川齊昭に国許永蛰居を命ずる。岩瀬忠雄ら一橋派幕更も処罰。)
- 8月28日(1859.9.24) 幕府、外国奉行兼神奈川奉行加藤則善・水野忠徳2人の職を解き、後任に溝口直清・赤松範忠・新見正興を任命。
- 8月29日(1859.9.25) 幕府、増徳院内の見習い士官R・モフエト・水兵I・ソコロフの墓碑保護につき約定。



図6 『武陽横浜一覽 Map of Yokohama』
喜斎立祥(二代広重)
辻岡屋文介板 明治3年10月(1871) 横浜黒船館蔵

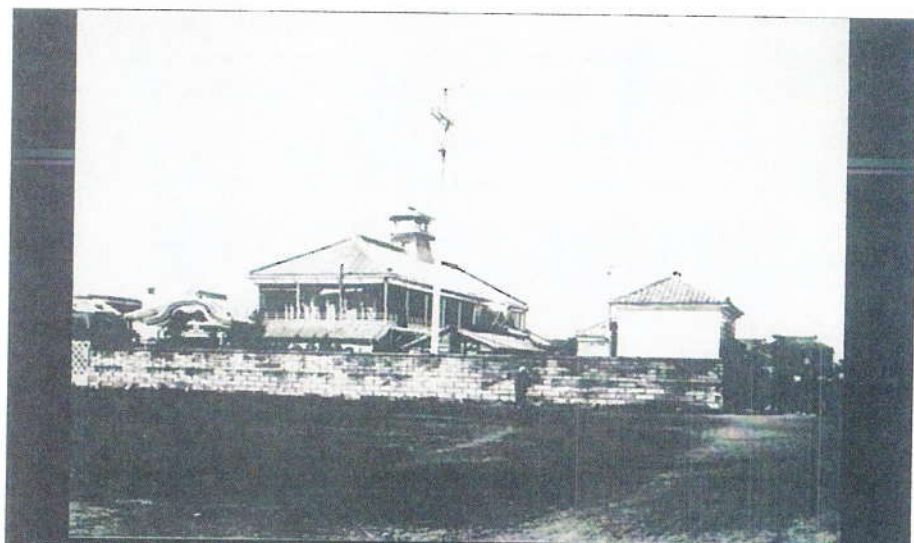


図6f 横浜役所 慶応3年(1867) Yokohama City Hall Far East 所載
The Illustrated London News (1867-2-9)は『1866年11月26日(慶応2年10月19日)横浜は、町の規模に比して、記録上のどの災害よりも悲惨な災害に見舞われた。日本人の町の全体と、ヨーロッパ人居留地の3分の1が完全に破滅に陥した。』と報じている。原屋火事後の類焼で庁舎を新築し、慶応3年3月に横浜役所と称した。



図6i 英国領事館 明治元年(1868) 居留地172番 The British Consulate
Far East July 17, 1871に貼付



図6k 参考：『大日本五港之内横濱港』
藪崎芳次郎_明治24年5月21日 横浜黒船館蔵
明治中期の波止場風景。五姓田義松の原画による石版画



図6l 参考：『555 WHARF YOKOHAMA』
横浜着色写真 横浜黒船館蔵

3. 横浜の街並み・風景

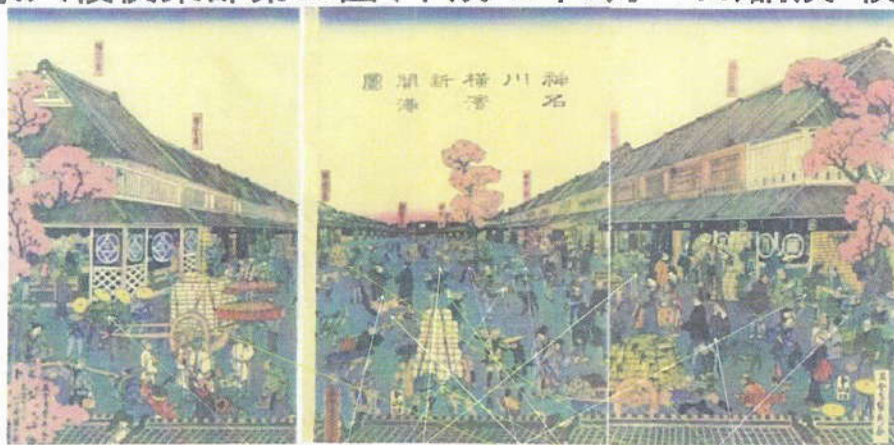


図7 『神名川横浜新開港図』

五雲亭貞秀 山口屋藤兵衛板 万延元年2月(1860) 横浜黒船館蔵

西欧の広場のように行商、立ち話し、旅人、桜を担ぐ植木職、泥棒犬、中国人、荷車など活気ある一つの世界を形作っている。ここには、貞秀新工夫の遠近法空間がある。

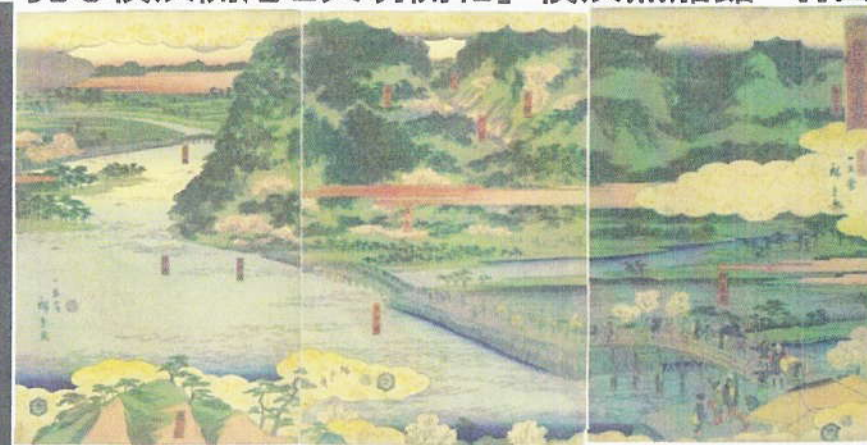


図8 『神名川横浜港眞景』

一立斎広重(二代) 大黒屋金次郎板
万延元年閏3月(1860) 横浜黒船館蔵

図9 『東海道神奈川』

芳虎 佐野屋富五郎

文久3年4月(1863) 横浜黒船館蔵

嘉永7年3月(1854)、幕府は再来航したペリー提督との間に「日米和親条約」を締結訓印したが、頑迷な排外主義者であった時の天皇の孝明天皇よりは攘夷の決行を根強く求められていた。これを橋梁する思惑から、第14代将軍徳川家茂は文久3年2月13日江戸を出発、東海道五十三次を22日間掛けて、3月4日京都二条城に到着することとなった。結局は、攘夷実行を約束せられただけでなく、京都で人質状態に陥り、老中格小笠原長行の率兵上京でやっと救出された。

本図は家茂が神奈川を通過する状況を描いたものであるが、遠景に横浜沖外国船が描かれている。

本図は有隣堂『集大成横浜浮世絵』(昭和54年)には未載である。筆者横田洋一氏の基準では本図は横浜浮世絵の範疇に入らなかったであろうか。

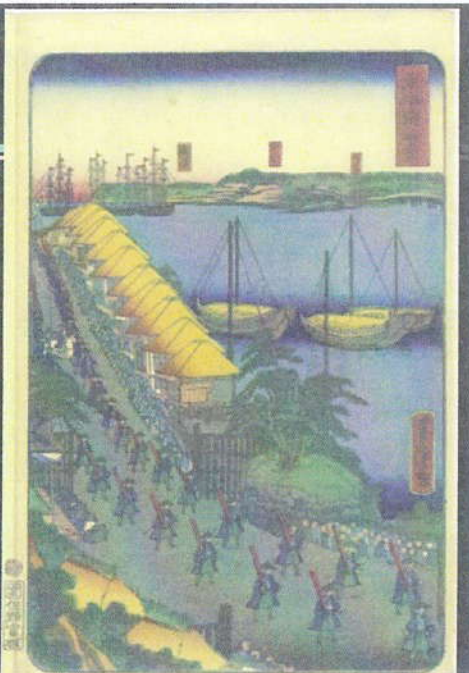


図10 『東海道神奈川』

豊国三代 伊勢屋兼吉

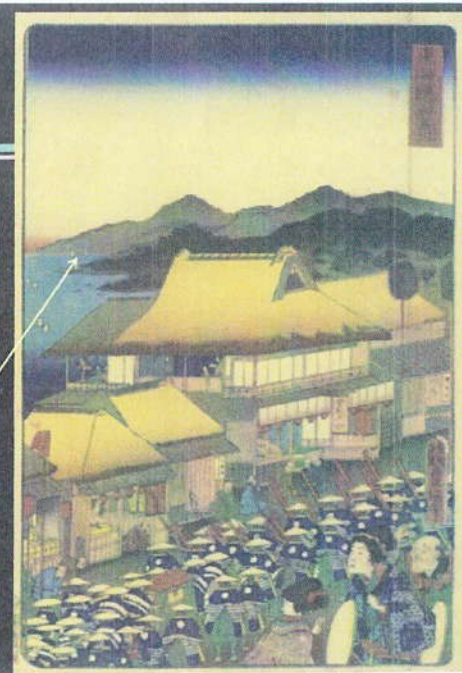
文久3年4月(1863)

横浜黒船館蔵

図29と同じ場面を豊国三代が描いたものである。家茂は、翌、元治元年(1864)、2度目の上京、慶応元年(1865)長州親征を呼号して3度目の上京を遂げ、そのまま大板城に滞在したが、条約勅許、兵庫開港問題で辞表を書くという騒ぎもあった。慶応2年(1866)大板城の家茂は幕府軍を長州へ攻めこませようとしたが敗退し、収拾がつかない状況下に病没することとなった。

本図には遠景として横浜村沖には和船のみ描かれ、外国船は描かれていない。78歳の豊国にとって外国船は未だなじめない風景であったのであろうか。

本図は有隣堂『集大成横浜浮世絵』(昭和54年)には未載である。本図も筆者横田洋一氏の基準では本図は横浜浮世絵の範疇に入らなかったであろう。



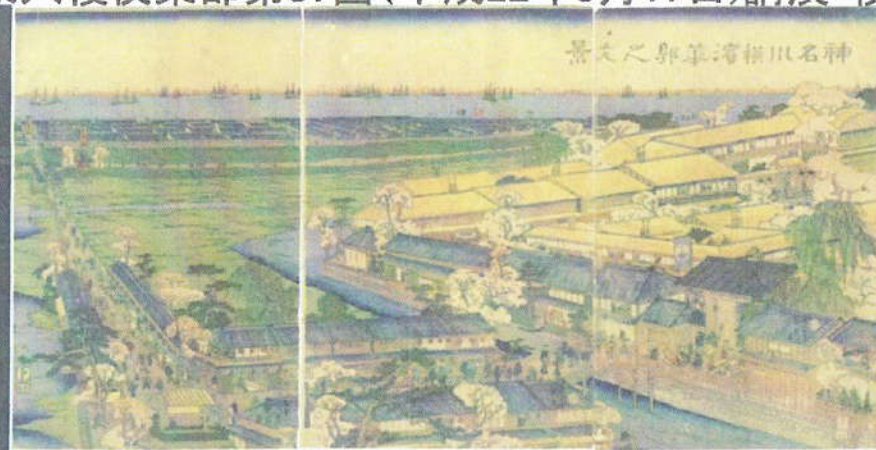


図14 『神名川横浜華郭之光景』
五雲亭貞秀 山口屋藤兵衛 万延元年2月(1860) 横浜黒船館蔵

五雲亭貞秀 港崎町遊郭は、開港に6ヶ月遅れ、安政6年11月に開業したが、本図はその3月後の万延元年2月に発行された。

49

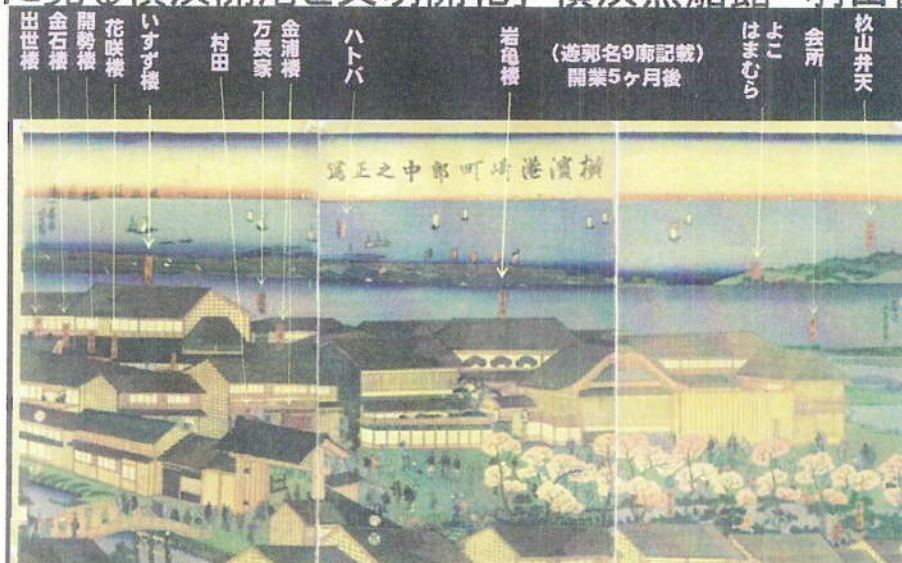


図15 『横濱港崎町郭中之正寫』
一壽齋芳員 丸屋甚八 万延元年3月(1860) 横浜黒船館蔵

図14の1ヶ月後、開業5ヶ月後の万延元年3月に発行された。



図16 『神奈川本町景港崎街新廓』
五雲亭貞秀 山口屋藤兵衛板 万延元年閏3月(1860) 横浜黒船館蔵

図12の更に1ヶ月後、開業5ヶ月後の万延元年閏3月に発行された。

51

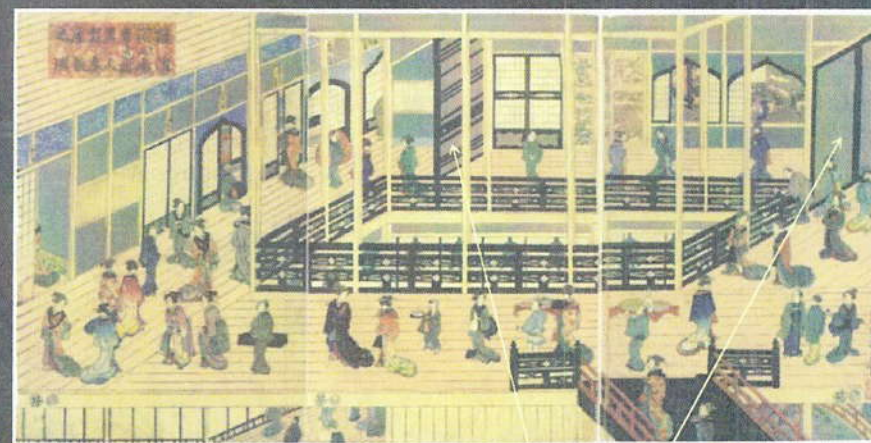
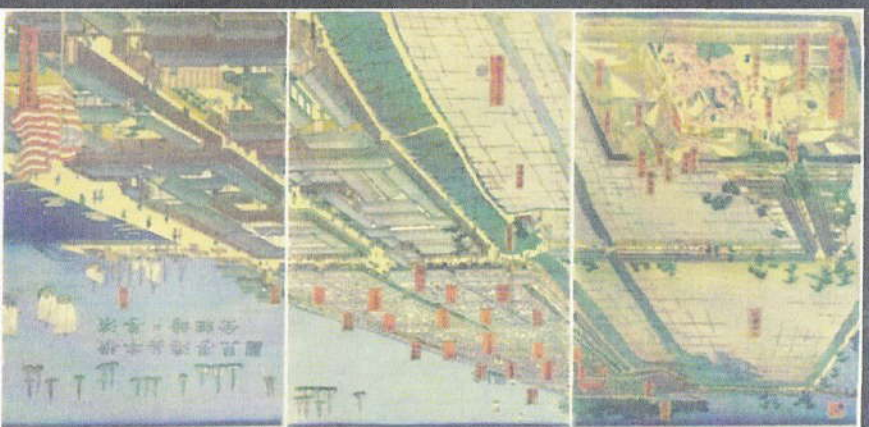


図17 『横濱港郭岩喜樓異人遊興座敷之圖』
一壽齋芳員 丸屋甚八 万延元年閏3月(1860) 横浜黒船館蔵

岩亀樓はとりわけ豪華に作られていた。家造りは『蜃気楼の如く、あたかも龍界の如く』と形容される見事なものであった。内部は、異人館と和入館に大きな仕切り戸で分けられていた。



圖18『橫濱港開港若重構異人遊樂之間』一川芳實丸屋甚八板
萬延2年1月横浜黒船館蔵



五雲亭貞秀 山本平吉板 万延元年4月(1860) 横浜黒船館蔵

図19と同じ開業5ヶ月後の万葉元年4月に発行された。



図17p 参考：『異国五ヶ国亞墨利加魯西亞英吉利仏蘭西阿蘭陀東海道神奈川在横濱御貿易場』安政6年(1859)異国人揚代金部分 横浜黒船館蔵

異国人揚代金は、税額により代金が異なり、上官 金5両、中官 金3両、下官 金1両2分であった。1両を5万円とすると、上官 25万円、中官 15万円、下官 7万5千円ということになる。

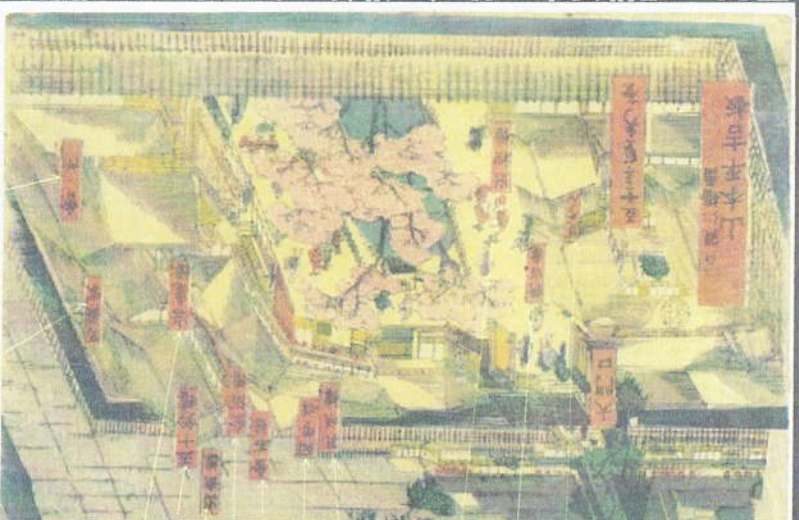


図20e 『横浜本町並びに港崎町細見全図』 港崎町部分

5. 軍隊

国際港として開港した横浜港は貿易の開始とともに、各国の商館やホテルが建ち並ぶハイカラな国際都市として日本中の注目を集めた一方、我が国の歴史上始めて、外国軍の駐留を許した時代でもあった。華やかな横浜の繁栄を描いた横浜浮世絵とて、このような情勢を見逃してはいない。これはまた横浜浮世絵の主たる顧客である江戸市民の問題意識でもあったのであろう。

37

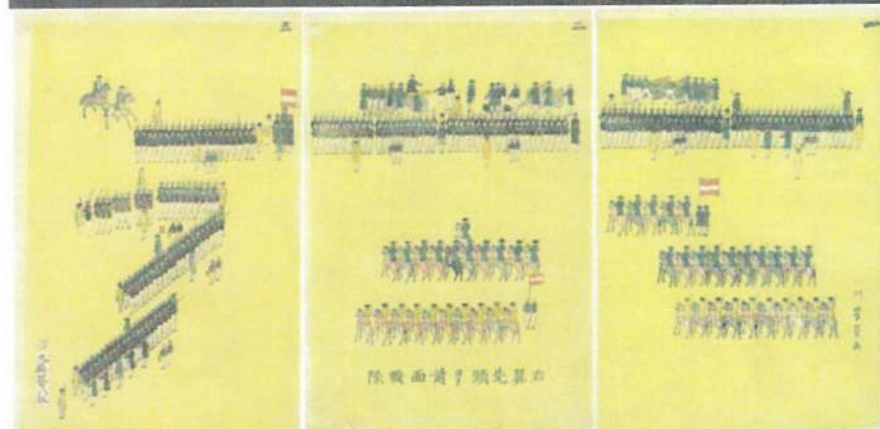
図21『天地玄黄宇宙洪荒』
(ロシア人兵士)
光親(芳盛カ) 越長版
万延元年4月(1860)
横浜黒船館蔵

本図は 有隣堂刊 集大成 横浜浮世絵には本図異版(図21e参照)のみが掲載されている。



フランスはイギリスに對抗して、公使のレオン・ロッシュが幕府に工作し、援助を申し出で、横浜に製鉄所、横須賀の造船所など軍事に必要な工場を著々と築いて行った。この図はフランスの軍制を採用した幕府軍の訓練の有様を描いたものである。本図は有隣堂『集大成横浜浮世絵』に未載である。

図22『調練仕方出世寿語禄』一柳斎国孝
大黒屋金三郎梓 慶応2年11月(1866) 横浜黒船館蔵



フランスはイギリスに對抗して、公使のレオン・ロッシュが幕府に工作し、援助を申し出で、横浜に製鉄所、横須賀の造船所など軍事に必要な工場を著々と築いて行った。一方イギリスは薩長を秘かに支援し、武器・弾薬などの輸送もした。この図はフランスの軍制を採用した幕府軍の訓練の有様を描いたものである。本図は有隣堂『集大成横浜浮世絵』(昭和54年)に掲載されているが、図23は未載である。

図23『右翼先頭ヨリ前面戦隊』一川芳員
丸屋甚八板 慶応2年12月(1866) 横浜黒船館蔵

図27『亜米利加 南京
いこくことは らんご』
恵斎芳幾 近江屋久次郎
万延元年12月(1860)
横浜黒船館蔵

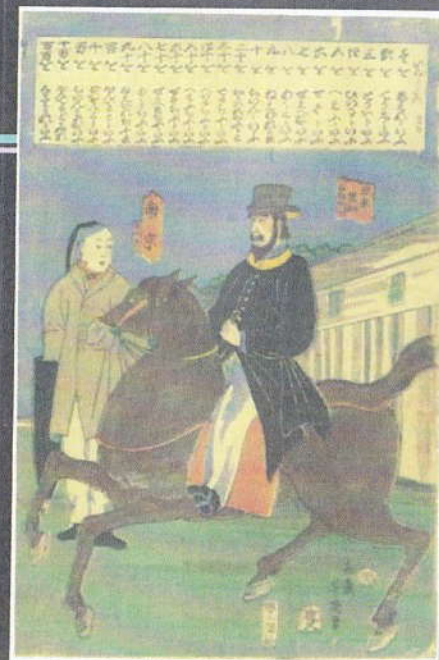
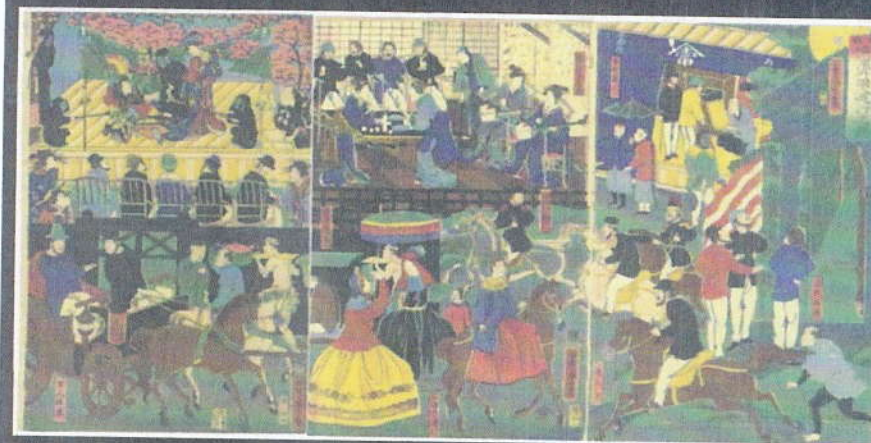


図28武州横浜外国人遊行之図』芳虎
山田屋板 万延2年正月(1861) 横浜黒船館蔵



内題

図28b『武州横浜外国
人遊行之図』内題部分



落款

図28c『武州横浜外国人遊行之図』
落款部分



板元印

図28d 『武州横浜
外国人遊行之図』
板元印部分

南伝馬二
山田屋板



69

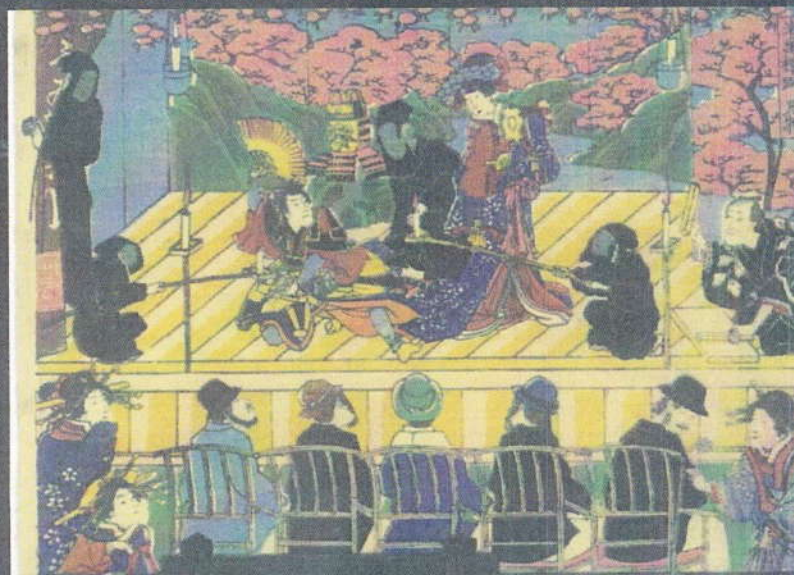


図28e 『武州横浜外国人遊行之図』 岩亀楼踊り見物部分

本図により、岩亀楼の洋室には踊り見物の舞台や椅子席まであったことがわかる。



図28f 『武州横浜外国人遊行之図』 廊のあそび部分

廊のあそびとは大勢で音楽などを聞きながら食事をする現在の宴会のようなものが含まれていた。



図28g 『武州横浜外国人遊行之図』
官人往来部分

72

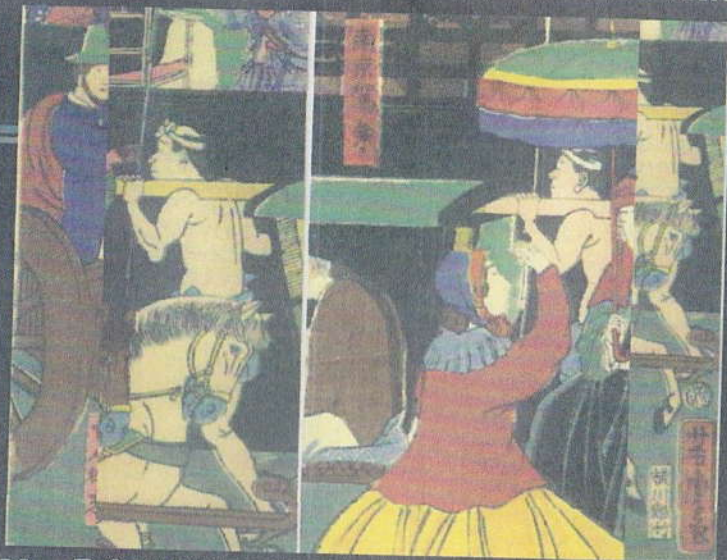


図28h 『武州横浜外国人遊行之図』 南京駕乗部分

南京駕乗とは『南京』さんが単に駕籠に乗ることを意味するのであろうか。そうであるとする、どうしてこれが外国人遊行に当たるのであろうか。

図28i 『武州横浜外国人遊行之図』
外国女人遊行部分

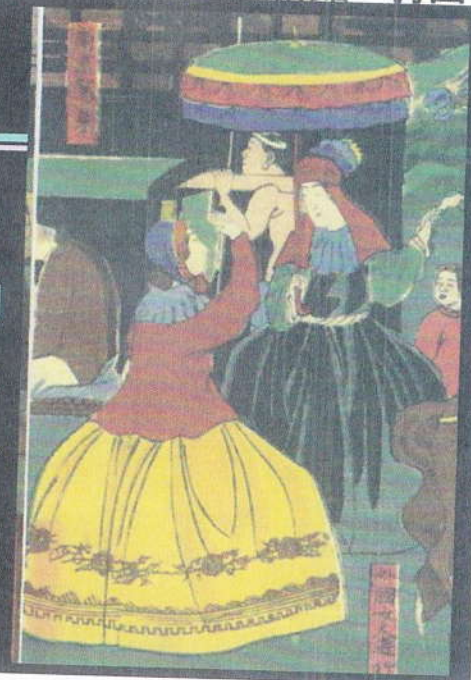


図28j 『武州横浜外国人遊行之図』 馬術 部分



図28k 『武州横浜外国人遊行之図』 遠乗り 部分

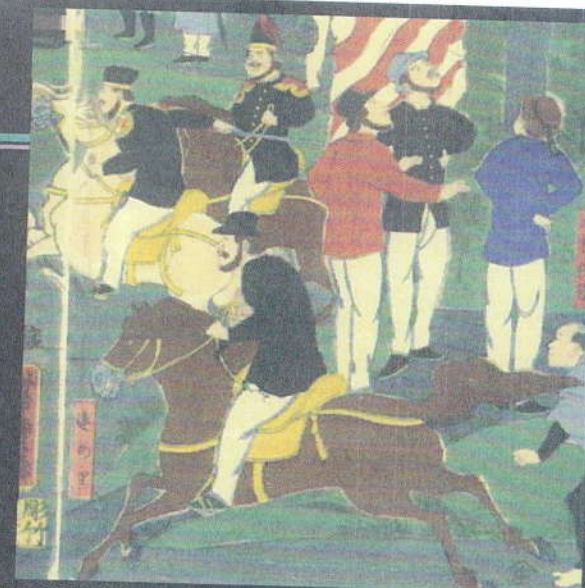


図31『外国人物盡
仙郎西』芳虎 若狭屋
与兵衛 文久元年5月
(1861) 横浜黒船館蔵



図32『外国人物盡
南亞墨利加』芳虎
若狭屋与兵衛
文久元年5月(1861)
横浜黒船館蔵



図33『横浜異人商館之図』五雲亭貞秀
佐野屋喜兵衛 文久元年9月(1861) 横浜黒船館蔵

ここに描かれた、遊女風の女性と楽器を奏でる西洋人女性の組み合わせは貞秀夢想の横浜異人商館風景であろう。

7. 外国人行列圖 (2図)



図34『横浜外国人行列之図』一川芳員
和泉屋市兵衛 万延2年2月(1861) 横浜黒船館蔵

外国人居留地の人々はドンタクつまり日曜日に楽器に合わせて歌や踊りを楽しみ、行列して街に出た。背景の寺院風の屋根と黒い板塀は初期の居留地の様子を伝えている。手前の行列集団はアメリカの新聞「フランク・レスリー」紙を参考に制作された。⁸⁵



図35『五箇国人物行歩図』五雲亭貞秀
山口屋藤兵衛 文久元年3月(1861) 横浜黒船館蔵

本図も、外国人居留地の人々のドンタク、日曜日に楽器に合わせて歌や踊りを楽しみ、行列して街に出る風習を知って、左上から米英仏露蘭と五か国人をとり合わせて一図にしている。

8. 外国の景観 (1図)

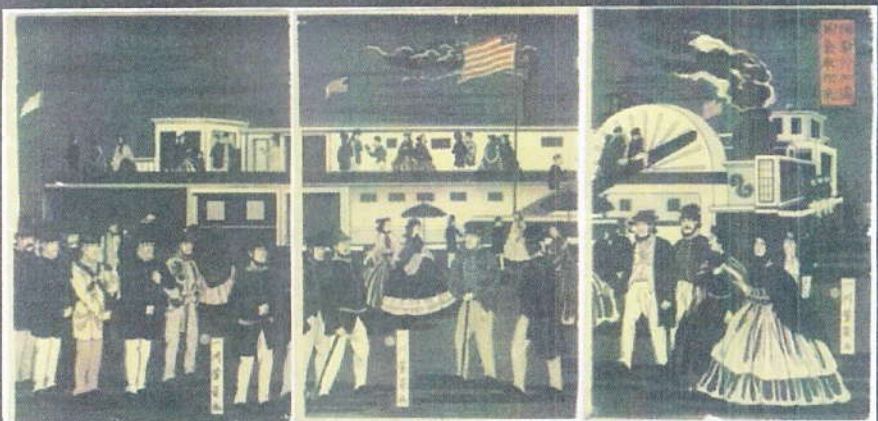


図36『亜墨利加国蒸気車往来』一川芳員
丸屋甚八 文久元年10月(1861) 横浜黒船館蔵

1860年代、開港間もなくの時代、見慣れた人と建物とで出来上がっている鎖国の日本とは全く違った顔つき、服装、言葉の、異世界が海外にはあるということを、現実には開港地横浜で出会う異人館や異人の風貌から想像できる時代になってきた。江戸の浮世絵師たちは、これを外国の新聞・雑誌などの比較的小型の小口木版による挿絵などから推察し、人々の好奇心に答えた。⁸⁸

9. 外国商館と洋風建築 (5図)



図37『横浜港佛蘭西商館之圖』一川芳員
丸屋甚八 慶応2年3月(1866) 横浜黒船館蔵

慶応2年(1866)10月20日朝9時ごろ、末広町の麻屋鋭五郎方から出火した火事は、折からの
大風により、外国人居留地の4分の1、日本人町の3分の2、運上所、改所役宅など開内の3分の1を
焼失した大災害となった。本図はこの麻屋火事直前の横浜の西洋館の貴重な記録である。⁹⁰



図37a 参考: Main Street of Yokohama
during the Great Fire The Illustrated
London News Aug.17,1961 横浜黒船館蔵
ワグマンの絵を木口木版化したもの⁹¹



図38『横浜異人館之圖』一川芳員 丸屋甚八
慶応2年3月(1866) 横浜黒船館蔵

本図も麻屋火事(慶応2年10月)以前の横浜の西洋館の貴重な記録である。横田洋一氏編『横浜浮
世絵』有隣堂 平成元年5月 p29 によると、『この図を英一審ジャーディン・マセソン商会という
説もある』としておられるが、ジャーディン・マセソン商会は図11eに示すように入母屋造りの白
亜の洋館であるから、本図は別の洋館を描いたものであろう。



図39『横浜海岸各国商館図』広重（三代）
萬屋孫兵衛版 明治4年3月(1872) 横浜黒船館蔵
 豚屋火事以降の横浜海岸通りの外国商館を示す。当時の様々な形式が一堂に会した感がある。

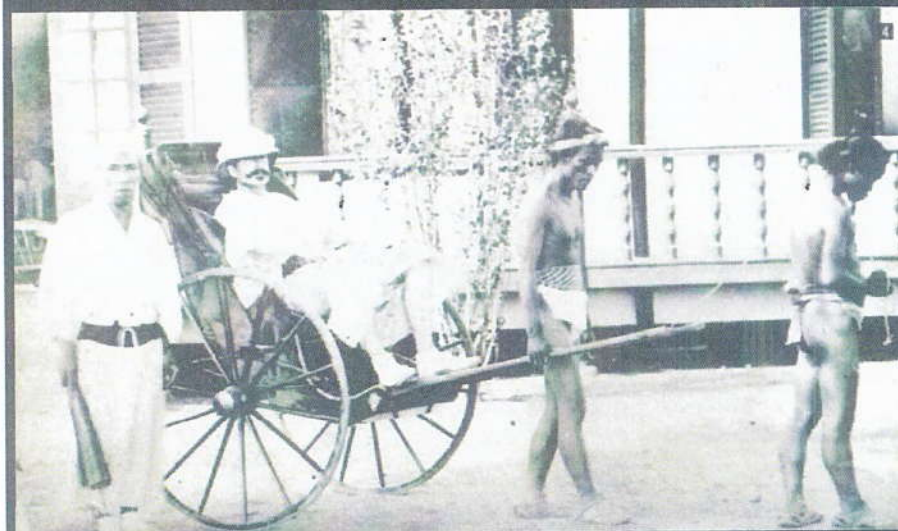


図40f 参考：「外人を引く人力車」写された幕末 石黒敬七
コレクション 石黒敬七 29-1 明石書院 1990再刊 所載



図41 『横濱繁榮本町通時計台 神奈川県全圖』
 国書(二代)丸屋鉄次郎板 明治8年(1875) 横浜黒船館蔵



図41f 参考：横浜町会所 明治7年プリジエンス
外国人建築家の系譜 p27所載.



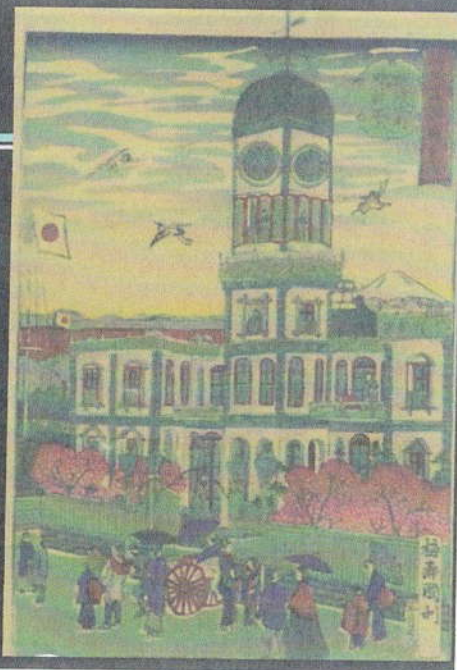
図41g 参考: 507 Town Hall Yokohama
明治の日本 横浜写真の世界 有隣堂 1990 p13所載



図41h 参考: 『Kanagawa Kencho at Yokohama』 彩色横浜写真 大正2年 横浜黒船館蔵

図42 『開化名勝図之内
横浜本町時計台』

梅寿国利 伊勢屋茂兵衛
明治11・12年カ
(1879・80?)
横浜黒船館蔵



10. 見せ物 (1図)



図48g Yokohama Station by Uchida(?), Stillfried(?)
c1872(明治5年) 横浜黒船館蔵

図49『東海名所改正道
中記五 蒸気の待合 神奈
川 程カ谷迄一里九丁』
広重(三代) 山清
明治8年8月カ(1876?)
横浜黒船館蔵

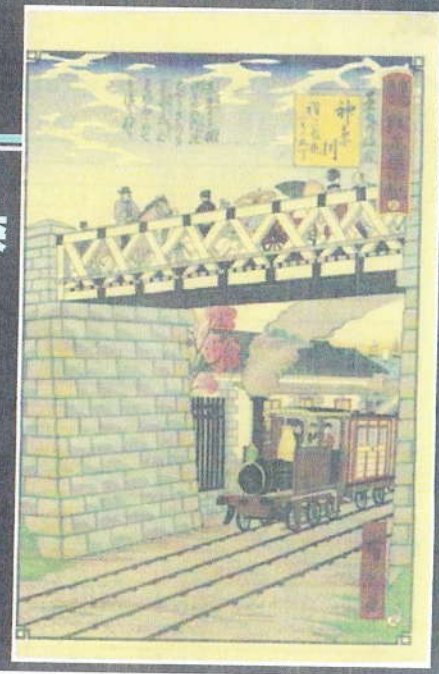
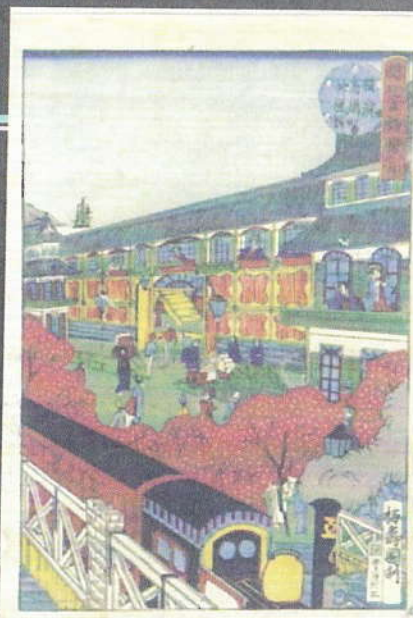


図50『開化名勝圖之内
横濱高島町神風樓』梅寿
国利 井上茂兵衛
明治11・12年カ
横浜黒船館蔵



図版リスト



東京六機倶楽部第87回講演「横濱浮世絵に見る横浜開港と文明開化」(平成22年3月17日)「横浜浮世絵図版リスト」

完



東京六稜俱樂部第87回講演「横濱浮世絵に見る横浜開港と文明開化」(平成22年3月17日)「横浜浮世絵図版リスト

横浜開港 羽田壽大

図番	作者名	内題	制作年	形状	板元
1. 開港前夜の横浜					
図1	広重(二代)・豊国(三代)(合作)	双筆五十三次加奈川 從金川臺芒横濱本牧眺望	嘉永7年6月(1853)	大判錦絵	丸屋久四郎
図2	長谷川雪旦	横濱辨財天社(江戸名所図会巻二・天璇之巻・第六冊)	天保5年(1834)	版本 26.2×18.5	須原屋茂兵衛・須原屋伊八
図3	長谷川雪旦	芒村姥島(江戸名所図会巻二・天璇之巻・第六冊)	天保5年(1834)	版本 26.2×18.5	須原屋茂兵衛・須原屋伊八
2. 絵地図					
図4	五雲亭貞秀	神奈川横濱港案内図繪	万延元年7月(1860)	大判錦絵 3枚続	大黒屋平吉
図5	五雲亭貞秀	再改横濱風景	万延2年2月／文久元年6月(1860)	大判錦絵 6枚続	丸屋徳造 丸屋甚八 合梓
図6	喜斎立洋(二代広重)	武陽横濱一覽 Map of Yokohama	明治3年10月(1871)	大判錦絵 3枚続	辻岡屋文介
2. 横濱の街並み・風景					
図7	五雲亭貞秀	神名川横濱新開港図	万延元年2月(1860)	大判錦絵 3枚続	山口屋藤兵衛
図8	一立斎広重(二代)	神名川横濱港風景	万延元年閏3月(1860)	大判錦絵 3枚続	大黒屋金次郎
図9	芳虎	東海道神奈川	文久3年4月(1863)	大判錦絵	佐野屋富五郎
図10	豊国(三代)	東海道神奈川	文久3年4月(1863)	大判錦絵	伊勢屋兼吉
図11	曉齋十・豊国(三代)	東海道五拾三駅 名画之書分神奈川・川崎	元治元年5月(1864)	大判錦絵	太田屋多吉
図12	広重(三代)	横濱海岸通之圖	明治3年10月(1871)	大判錦絵 3枚続	伊勢屋喜三郎
図13	梅寿国利	開化名勝圖之内 横濱海岸波止場	明治11・12年カ(1878・1879?)	大判錦絵	伊勢屋茂兵衛
4. 遊郭					
図14	五雲亭貞秀	神名川横濱華郭之光景	万延元年2月(1860)	大判錦絵 3枚続	山口屋藤兵衛
図15	一壽齋芳員	横濱港崎町郭中之正寫	万延元年3月(1860)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
図16	五雲亭貞秀	神奈川本町景港崎街新廓	万延元年閏3月(1860)	大判錦絵 3枚続	山口屋藤兵衛
図17	一壽齋芳員	横濱港郭岩喜樓異人遊興座敷之圖	万延元年閏3月(1860)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
図18	一川芳員	横濱港崎虎岩喜樓異人遊興之圖	万延2年1月(1861)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
図19	一勇齋國芳	横濱郭之圖	万延元年4月(1860)	大判錦絵 3枚続	和泉屋市兵衛
図20	五雲亭貞秀	横濱本町並びに港崎町細見全図	万延元年4月(1860)	大判錦絵 3枚続	山本平吉
5. 軍隊					
図21	光親(芳盛カ)	天地玄黄宇宙洪荒(ロシア人兵士)	万延元年4月(1860)	大判錦絵	越長
図22	一柳齋國孝	訓練仕方出世壽語録	慶応2年11月(1866)	大判錦絵 4枚貼合	大黒屋金三郎
図23	一川芳員	右翼先頭ヨリ前面戦隊	慶応2年12月(1866)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
図24	一川芳員	左翼先頭ヨリ前面戦隊／後面戦隊	慶応2年12月(1866)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
図25	一魁齋芳年	仏蘭西・英吉利西三兵大訓練之図	慶応3年8月(1867)	大判錦絵3枚続の内1枚	玉明堂
6. 外国人風俗					
図26	一光斎芳盛	港崎横濱一覽	万延元年11月(1860)	大判錦絵 2枚続	太田屋多吉
図27	恵斎芳幾	亜米利加 南京 いこくことは らんご	万延元年12月(1860)	大判錦絵	近江屋久次郎
図28	芳虎	武州横濱外国人遊行之図	万延2年正月(1861)	大判錦絵 3枚続	山田屋
図29	五雲亭貞秀	横濱渡来亜墨利加商人旅行之図	万延2年正月(1861)	大判錦絵	大黒屋平吉
図30	芳員	仏蘭西人之肖像	万延2年2月(1861)	大判錦絵	丸屋甚八
図31	芳虎	外国人物盡 仏郎西	文久元年5月(1861)	大判錦絵	若狭屋与兵衛
図32	芳虎	外国人物盡 南亜墨利加	文久元年5月(1861)	大判錦絵	若狭屋与兵衛
図33	五雲亭貞秀	横濱異人商館之図	文久元年9月(1861)	大判錦絵 3枚続	佐野屋喜兵衛
7. 外国人行列圖					
図34	一川芳員	横濱外国人行列之図	万延2年2月(1861)	大判錦絵 3枚続	和泉屋市兵衛
図35	五雲亭貞秀	五箇国人物行歩図	文久元年3月(1861)	大判錦絵 3枚続	山口屋藤兵衛
8. 外国の景観					
図36	一川芳員	亜墨利加国蒸気車往来	文久元年10月(1861)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
9. 外国商館と洋風建築					
図37	一川芳員	横濱港佛蘭西商館之圖	慶応2年3月(1866)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
図38	一川芳員	横濱異人館之図	慶応2年3月(1866)	大判錦絵 3枚続	丸屋甚八
図39	広重(三代)	横濱海岸各国商館図	明治4年3月(1872)	大判錦絵 3枚続	萬屋孫兵衛
図40	広重(三代)	横濱各国商館真図	明治5年11月(1873)	大判錦絵 3枚続	森本順三郎
図41	國鶴(二代)	横濱繁榮本町通時計台 神奈川縣全圖	明治8年(1875)	大判錦絵 3枚続	丸屋鉄次郎板
図42	梅寿国利	開化名勝圖之内 横濱本町時計台	明治11・12年カ(1879・80?)	大判錦絵	伊勢屋茂兵衛
10. 見せ物					
図43	芳虎	中天竺舶来之輕業 元治元年弥生上旬より 武州横濱の地に於みて興行之圖	元治元年3月(1864)	大判錦絵	藤岡屋慶次郎
11. 鉄道開通					
図44	広重(三代)	横濱往返蒸気車全圖	明治5年正月(1873)	大判錦絵 3枚続	上州屋金蔵
図45	広重(三代)	河崎露見川蒸気車之圖	明治5年正月(1873)	大判錦絵 3枚続	辻岡屋文助
図46	永林	横濱名所の内蒸気車館昌栄之図	明治5年3月(1873)	大判錦絵	丸屋甚助・伊勢屋茂兵衛
図47	広重(三代)	横濱新埋地高島町揚屋三階造海岸遠景之図	明治6年4月(1873)	大判錦絵 3枚続	丸屋鉄治郎板
図48	広重(三代)	横濱鉄道館蒸気車往來之圖	明治6年カ(1874)	大判錦絵 3枚続	不詳
図49	広重(三代)	東海名所改正道中記五 蒸気の待合 神奈川 程カ谷迄一里九丁	明治8年8月カ(1876?)	大判錦絵	山清
図50	梅寿国利	開化名勝圖之内 横濱高島町神風樓	明治11・12年カ(1879・80?)	大判錦絵	井上茂兵衛